

平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(木曾岬町)の概要

平成24年10月24日(水)に木曾岬町の木曾岬中学校体育館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「木曾岬さくら舞」の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



トークに先立ち、さくら舞の皆さんに「2012桜」の演舞をご披露いただきました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 「名古屋ど真ん中まつり」に行くと、見ず知らずの参加者と交流がある。交流というのはあいさつ。あいさつは、エネルギーの交換だと思う。衣装を着ていると見知らぬ人でも会話が弾む。韓国の方にもプレゼントをあげたりした。
- ダンスが好きで、地元でできるというのはすごいこと。チームでいろんなイベントに行けたり、参加できる。楽しむことができるのは強み。
- 10年やってきて、楽しんできた。衣装をどうしようか考えたり、一年間ずっと関わっていけるのが楽しい。
- 娘がさくら舞に入った時は友達も一緒だったが、部活で忙しくてやめてしまう。高校生になって来れないときもあるが、娘にとってはみんなが母、お兄さんという存在。入ってくる子も同じように育てていきたい。この循環がうまくいくといいと思う。
- みなさんが温かいので、続けてこれたと思う。自分から見ると母親世代だが、世代を超えて触れ合えるので本当に参加できてよかった。
- 縦のつながりが一番楽しい。自分の子供の世代とも、幅広くいろんな年代の方と交流できるので、広がっていければと思う。
- 木曾岬町は小さい町であるが、小さいながらも楽しい我が町となればよいと思う。小さいからこそできることもあるので、これから10年はやっていきたい。

中学生になると部活が忙しくなる。夏だけでも、ど真ん中まつりに出て楽しかったので、小中学生にも入ってもらいたいと思うし、10代、20代に入ってほしい。さくら舞に入ってから、人前での仕事もこなせるようになり、性格も変わった。桜のきれいな町道を大型トラックが通るようになり、道路の目的が変わってきている。町道から県道にできないか。できないのであれば補助金などの支援をお願いしたい。



【知事の発言】

皆さんからの意見を受け、知事からは以下のような発言がありました。

自分の存在の価値が認められたときに幸せを感じる。世代を超えたつながり、場があることは非常にいい。

子どもたちが悩んだりしたときに、たくさんの大人が見守ることができる場所があるというのは大事なことだ。

木曾岬町出身や木曾岬町に思い入れのある桑名県民センターの職員にも参加を働きかけたい。

町道については1対1対談で町長から現場を見せていただいた。愛知県側との交渉も含めて、いろんな選択肢を考えて、町長と検討したい。



当日来ていただいた木曽岬町の加藤町長と木曽岬さくら舞の皆さん

【木曽岬さくら舞とは】

木曽岬町の木である「さくら」をテーマにした舞を披露し、福祉施設などで慰問活動を行うほか、木曽岬町を多くの方に知っていただきたいという思いで町内外のイベントや祭で木曽岬町のPRを行っています。チームが結成されて12年で、チームのコンセプトは、「粋な女」。

「名古屋ど真ん中祭り」には、10回連続で出場しており、今年度10年表彰もされています。